

2023年1月29日（日）主日朝礼拝説教

『神の国は近づいた』井上隆晶牧師
エレミヤ書 16 章 14～17 節、マルコ福音書 1 章 14～20 節

①【神の国は近づいた】

イエス様はおよそ 30 歳になってから、その活動を始められました。イエス様はガリラヤへ行き、福音を宣べ伝え「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(1:15) といわれました。「時は満ちた」とはどういう意味でしょう。ギリシャ語では「時」を現わす言葉に「クロノス」と「カイロス」の二つがあり、ここではカイロスが使われています。クロノスというのは普通に流れる時間のことですが、カイロスというのは神様の救いの時のことです。カナの婚礼でぶどう酒がなくなった時、マリア様がイエス様に、ぶどう酒がなくなったことを相談すると「私の時はまだ来ていません」(ヨハネ 2:4) といわれました。それと同じ時です。ここでは神様がお定めになった「救いの時がやって来た」と言われたのです。この世界には、二つの時間があります。過去から未来にたんたんと流れてゆく時間と、神様がお決めになった救いが現れる時間です。この世の時間の中に、神の時間が入ってきているということです。この世の時間はやがて終わりますが、神の時間は終わりません。永遠です。この神の時間に生きる人は幸いです。イエス様もマリア様も神の時を待ち、そこに生きた方たちでした。私たちもこの神の時間に入り、その時を生きなければなりません。それはすなわち、礼拝の時間です。皆さんが礼拝を守る時、それは神の国の永遠の時間を生きているのです。

続いて、イエス様は「神の国は近づいた」といわれました。ユダヤ人は、メシアが来られたら地上に天国（神の国・楽園）が出来上がる思っていました。彼らはイエス様が支配者であるローマ人を追い払い、もう一度ユダヤ王国を造って下さると思ったのです。ユダヤ人だけでなく、私が最初に聖書を読んだ時も、そのように思いました。イエス様のお働きによって地上に天国（楽園）ができるのだと。そして主の祈りの中の「御国が来ますように」という祈りも、地上に天国（楽園）が出来上がりますように、という意味だと思っていました。それはカルト宗教も同じです。旧統一協会は、キリストはこの地上を天国（楽園）にするために来た。でも失敗した。だから新しいメシアが来ているのだ、その方に協力しなければ地上天国は出来ないと教えます。そして多額の献金を集め、それで土地を買い占め、地上に天国が出来たのだと言います。皆さんはどうでしょうか。未だにこの地上には戦争や紛争があり、疫病が流行り、事件が絶え間なく起こっています。一体、キリストの救いはどこに行ったのか、彼は天国を造ることを失敗したのではないかと思う人がいるのではないのでしょうか。でも聖書を読んでゆくと、そのような意味ではないことがだんだん分かってきました。聖書の別の個所にこんな話が

載っています。「ファリサイ派の人々が、神の国はいつ来るのかと尋ねたので、イエスは答えて言われた。『神の国は見える形ではこない。ここにある、あそこにある、と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。』（ルカ 17：20～21）また、パウロは「神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。」（ローマ 14：17）とっています。神の国というのは、地上に目に見える形でできるものではなく、おいしい物を食べたり飲んだりするようなものでもなく、聖霊によって与えられる平安と喜びなのであって、私たちの心の内にできるものなのだというのです。「国」はギリシャ語で「バシレイア」といい、「王、支配」という意味があります。だから「神の国が来ますように」とは「神の支配が行われますように」という意味になります。それはまず私自身にです。主の祈りは「神の愛とご意志が私を支配して下さいますように」と祈っているのです。

「神の国はあなたがたの間にある」とイエス様が言われた時、人と人の間が平和になれば神の国がそこに現れるという意味ではなく、イエス様自身を現わしています。「あなたがたの間に神の国である私がいる」という意味です。「神の国」とはイエス様のことなのです。あなたがイエス様を心に受け入れるなら、あなたの心の中に神の国が出来るのです。イエス様を受け入れるとは、あなたがイエス様を必要とするということです。人は自分が必要とするものを受け入れるものです。

「悔い改めて」とは、悪い事を辞めるという意味ではなく原語は「思いを変える」という意味です。イエス様を必要とする思いに変わることです。だから遊女や徴税人や罪人たちはイエス様に近づけたのです。彼らは誰よりもイエス様を必要としたからです。

●三浦綾子さんがこのようなことを言っておられます。「人間は天国を望みながら、自らそれを拒絶している。平安を求めながら、神が与える平安を追い出し、自分の力で平安を得ようとしている。」

先週の火曜日に祈りながら、ずっとイエス様のアイコンを見つめていたら、不思議な感動を覚えました。この方が私の所に来てくださり、触れられた時、私は恐れではなく、愛を感じました。裁かれると思っていたのに、赦しの言葉を聞いたのです。冷たさではなく、温かさを感じたのです。それはこの地上で味わったことのない平和と喜びと感動でした。ああ、これが天国なのだと思います。それは私の魂の記憶の中に今でも刻まれています。地上で一度キリストを知った人は、天国に行っても同じだという事を知っています。先取りをしたのです。だから死ぬことを恐ろしいという想いが湧いてきた時、この時の体験と感覚を思い出すのです。すると恐れが消えてゆきます。多くのクリスチャンはキリストを知識としては知っていますが、体験として知っている人は少ないように感じます。この方を受け入れる事が天国を体験することなのです。地上のいかなるものを手に入れても天国は感じないでしょう。この方の愛にまさる愛を地上に見ることは出来なからです。地上に目に見える形で天国が出来ることはすばらしいことであり、

いつか必ずそのようになるでしょう。神が必ずして下さいます。でもそれよりもっと大事なことは、自分の心を天国にすることなのです。昔の修道士が言いました。「もしあなたの心が天国でなければ、たとえエルサレムのゴルゴダの丘に立ったとしても、神の国に入れられたとしても、天国は感じないでしょう。」まことにその通りなのです。あなたが天国に立ったとしても、不平やイライラや恐れを心の中に抱いていたら、そこは天国ではないでしょう。天国には誰でも入れられますが、そこに相応しい魂と心を用意しなければ、出て行かなければならなくなるでしょう。

②【召された、呼ばれたということ】

「イエスはガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師だった。イエスは『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう』といわれた。二人はすぐに網を捨てて従った。」(16～18節) イエス様が弟子たちを呼び集められたことが書かれています。どんな宗教でも人間が神を捜し求めます。しかしキリスト教は神の方が人間を捜し求めるのです。「あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。」(ヨハネ 15:16) という有名な言葉をご存知でしょう。神がまずあなたに目を留められ、あなたを呼ばれたのです。なぜ、私が選ばれ、呼ばれたのかは分かりません。ここで呼ばれたのは無学な漁師たちでしたが、私たちも普通の人間でした。

●私はキリスト教徒になって本当に良かったと思いました。長野県の田舎で生まれた私はそこで一生を終えることも出来ました。でも大阪に来て旧統一協会に入ってしまったことにより、本当のキリスト教に出会い、変えられ、更に牧師にさせてもらいました。先日、カトリックのマリア大聖堂で一致祈禱会をした後、イタリア人の神父と、ポルトガル人の神父と、ルーテルの牧師と四人でイタリアンレストランで食事をしました。4人で信仰の話をし、とても楽しい時を持ちました。神父は「私たちは普通の人だけれども、すばらしい信仰の賜物を貰った」といわれました。本当にそう思います。もしキリスト教徒にならなかったなら、こんなに豊かな交わりは経験できなかったでしょう。

ヤコブとヨハネの二人の漁師は網の手入れをしていました。破れてしまった所を繕っていたのです。人間は自分の人生の破れ(罪)を、自分で繕うことはできません。キリストに繕ってもらうのです。そのためにキリストの体が裂かれて、あなたの破れ(罪)にあてられたのです。あなたの人生が破れれば、破れるほど、そこにキリストは自らの肉と血で繕って下さいます。人間が自分の力で繕ったものは、やがてまた破れてしまうでしょうが、キリストに繕ってもらった所は、永遠に耐えます。こうして縦糸と横糸が組み合わされるように、神と私たちは一体になるのです。何という楽しい事でしょうか。世の中には選ばれない人もいます。キリスト教徒として選ばれ、信仰が与えられたことを感謝し、それを確かなものとしてゆきましょう。